

## 50年を超える友好の歴史に新たな1ページ

秦野市副市長  
八木 優一

今回の訪問の主な目的は従来とは異なり、秦野市民の義援金を届けることでした。ワグナー市長の就任後、程なくしてハリケーンの影響に見舞われることになりましたが、市長は困難な対応のなかにも拘らず、パサデナ姉妹都市協会ゲイル会長とともに、訪問団に細心の歓待をしていただき、一同、深く感銘を受けました。

また、友好関係継続のため二人が相談し、ワグナー市長の来秦とパサデナ市役所内に相互連絡の担当を置くことを即断してくださいました。

今回の訪問は、両市の友情が一層深まるきっかけとなり、友好の歴史に新たな1ページを加えたことを確信しました。

## 新たな友との出会いに感激

秦野市市民部長  
正岡 義海

初めてのパサデナ訪問、20年ぶりの英会話、50も半ばにかかる私には、ドキドキの3泊5日でした。“There were best friends who had never met yet.”これは、今年の1月にパサデナ市に伺った青少年訪問団の特集を記載した広報の見出しですが、今回の訪問で私が感じたのはこの思いとともに被災を克服して、明るく過ごしている市民に勇気づけられたことでした。

## 他地区に転校した生徒の気持ちがつらい

秦野市子ども健康部健康づくり課  
熊澤 淳一

多くの方と直接言葉を交わすことで、その人たちの気持ちを感じることができました。被災後1週間、市役所に泊まりがけで対応した職員の、その当時のことを話す言葉には使命感・責任感が感じられました。トンプソン中学校のプルデンシオ先生は、被災した生徒の中には他地区に住む親族に引き取られ、トンプソン中学校で卒業させることができないことに無念さを感じていました。今回の訪問で、少しでも先生方や生徒たちの気持ちを受け止め、この気持ちを両市のさらなる交流の絆につなげていきたいと思っています。

11月8日(水)～11月12日(日)

# “パサデナの復興を願う”

八木副市長をはじめ6名の訪問団は、ハリケーン災害に心裂く秦野市民の想いを携え、被災した姉妹校や浸水地域を見舞い、皆様の心からの義援金を無事届けることができました。その時の様子を、紙面でご報告いたします。



← スカイプ交流にも使われていた図書室



↑ 「ここはかつてのオーケストラルーム」と、辛い面持ちで説明するパサデナ姉妹都市協会のゲイル会長



影 → 被災後から設置されたという水深測定柱(車中から撮)



また会う日まで  
See you again



↑ みんな集合  
生徒たちは校舎を追われたことにもめげず、とても元気で明るい

## 「心の絆」が一層強まる

秦野パサデナ友好協会会長  
望月 國男

壊滅的な洪水で数日間冠水していた道路は復旧されていましたが、家の庭の隅には瓦礫が積み上げられ、トンプソン中では校舎が使えなくなるほどの大きな被害を受け、胸が痛む思いがしました。こうしたなかで、市民は私たちを温かく迎えてくださり、感激しました。

今回の訪問によって、国際交流の原点である市民同士の「心の絆」が一層強まりました。これからは、さらに「支える喜び、支えられる喜び」を育み、「地球規模で考え、行動は足元から」の考え方を大切に、相互が連帯し合い、両市の新たな友好の歴史を作っていきたいと思っています。「感謝・感激・感動」を両市民が心から共有できた意義ある訪問でした。

## 秦野市民の心が伝わる

秦野パサデナ友好協会副会長  
六本木 康

パサデナ姉妹都市協会役員のみずほさんは、うっすらと涙を浮かべながら、秦野市がパサデナ市のために募金活動をし、パサデナ市まで義援金を届けてもらったことなどに対し、秦野市への感謝の言葉を述べられました。

これまでの訪問とは違って、今回は深い感動を覚えたとの声も聞かれました。お互いが「寄り添って」友好を深めていこうとする、両市の新たな歴史の1ページが開けたと感じ、改めて身の引き締まる思いがしました。

## パサデナの人たちの温かさに感銘

秦野市市民部市民活動支援課  
村上 智哉

今回で二度目の訪問となりましたが、変わらず感じたのは、パサデナの人たちの温かさです。個人的には友人と呼べる人もできました。仕事を通して感じていることは、都市交流で大切なのは、何といたっても「心の交流」をすることだと思っています。今回の訪問の最大の成果は、我々がさらに友好の輪を広げ、将来の交流への大きな可能性を見出したことだと思っています。被災した人たちが前を向いて、元気で頑張っている様子に、胸を打たれました。